

教科・科目	美術 I 必修	2 単位	対象学年・組	1 学年 1～6 組
教科書	美術 1 (日文)	教科担任	桜井 麻倫子	

1. 目標 美術の表現に関心を持ち、造形活動に取り組む。創造する喜び、楽しさを味わい芸術的な思考力、判断力、表現力を伸ばす。
2. 学習の到達目標
発想を豊かに、創造力や想像力を発揮して表現する。
課題作品を最後まで丁寧に仕上げ、完成する。
3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	絵画デッサンの学習	6	鉛筆デッサンの練習 静物デッサン	基本的創造力・造形力を身に付ける
	後 半	デザイン ポスター制作	12	構想を膨らませ啓発ポスターのデザインを考え、表現する。下描きをしてアクリル絵の具で色彩豊かに表現する。	スケッチブックに下描きをする。 絵の具で着色する。 文字は最後に塗り、全体の調和感、完成度を高める。
		レタリング	4	スケッチブックとクロッキー帳に学年・組・番・氏名を見やすくレタリングする。	鉛筆で下書きをしてからペンで清書する。 美しく仕上げる。
2 学 期	前 半	絵画	16	人物画を描き、白黒の絵の具で着色する。グレーのモノトーンを使って表現する。	写真からの転写、線描きで転写する。白黒絵の具で着色する。
	後 半	デザイン (グリーティングカード)	8	銅版画の特性を活かして、造形的な美しさを追求する。 色彩と構成について学び、画用紙を使って表現する。	色画用紙の特徴を生かして、巻紙を組み合わせて表現する。
		感情移入	8	「喜怒哀楽」の内から1つ選び、感情を絵で表現する。	感情を色や形に置き換えて、絵で表現する。
3 学 期		木彫	16	スプーンなどの食器を木彫する。	木という素材に触れ、その性質を理解して、扱えるようにする。

4. 学習方法と生徒への注意

<ul style="list-style-type: none"> ・用具、材料を忘れず持ってくる。絵の具セット (鉛筆、絵筆、絵の具、パレット) など ・飲食禁止。携帯電話の画像を見て作業することを禁止する。 ・勝手に教室から抜け出さない。集中して作業に取り組む。 ・汚れる作業がある場合は、教室内のみ異装を許可する。 ・他の生徒に迷惑をかけるようなことはしてはいけない。場合によっては授業妨害として指導する。 ・教室内の物品は大切に扱う。 ・常識の範囲内で楽しんで作業に取り組む。
--

5. 評価の観点・方法

<ul style="list-style-type: none"> ・各学期、すべての作品を提出する。 ・提出期限を守る。提出日に未完成の場合、原則としてその日の放課後に仕上げる。 ・用具を必ず持ってくること。 ・努力している、集中しているなど授業態度も成績に入る。他の人の迷惑になる行為は減点する。

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 **年間授業計画** 都立蒲田高等学校

教科・科目	美術Ⅱ 必修選択	2単位	対象学年・組	2学年1～6組
教科書	美術2（日文）	教科担任	桜井 麻倫子	

1. 目標 多様な芸術の表現に触れ、表現力、造形力を高める。
幅広い芸術的諸活動を通して創造力、想像力を発揮して表現する力を身に付ける。
2. 学習の到達目標 個性的なオリジナリティーあふれる表現を目指す。発想だけでなく、描き込みや作り込み、また高い完成度を追求する。
3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前半	くすのき祭ポスター レタリングの練習 パネルの水張り ポスターの原案	8	レタリング（明朝体、ゴシック体）とイラストレーションを組み合わせる。レタリングを丁寧に描く。	レタリングを丁寧に下書きする。文字情報とイラスト・絵の配置バランスをよく考えて表現する。
	後半	ポスターの着色 共同制作	12	色彩の計画を練り、丁寧に絵の具で着色する。	全体の色彩がまとまり、目立つ配色を工夫する。 字・絵ともに丁寧に着色する
2 学期	前半	銅版画で描く空想の世界	14	銅版画を用いて描く。半立体になるように折り目を工夫する。	構図や表現モチーフを工夫してつくる。版画の表現と鑑賞を学ぶ。
	後半	絵画・デッサン（自然を観察する）	14	デッサンの基本テクニックを習得する。	自分の表現を自由にイメージし、オリジナルの作品を作る クラスメイトの作品から学び、バランスよく表現と鑑賞の学習を行う。
3 学期		絵画 ・フォトデッサン ・イメージ画	14	写真を用いて、よく観察して鉛筆で描写する。 想像力を発揮して、イメージの世界を独創的に表現する。	細かいところまでよく観察して鉛筆で描く。 イメージした世界や感覚を絵で表現し、絵の具で着色する。

4. 学習方法と生徒への注意

<ul style="list-style-type: none"> ・用具、材料を忘れず持ってくる。鉛筆箱、絵具道具等。 ・飲食禁止。携帯電話の使用も禁止。授業規範を確立して楽しく制作する。 ・勝手に教室から抜け出さない。集中して作業に取り組む。 ・汚れる作業がある場合には、教室のみ異装を許可する。 ・他の生徒に迷惑をかけるようなこと（大声でしゃべる、作品にいたずら）は絶対に禁止。 ・教室内の物品は大切に扱うこと。落書き厳禁。 ・単元の順序は変更することがある。

5. 評価の観点・方法

<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、作品の完成度、授業態度を総合して評価をつける。 ・各学期、すべての作品を提出する。未完成の場合は減点対象とする。 ・提出期限を必ず守るよう、計画的に作業を進める。授業時間内に完成できなかった場合は、提出日までの放課後に美術室に来て、作品を仕上げる。 ・絵の具セット、教科書等の用具を持参する。忘れ物は減点対象とする。 ・努力や集中力も成績に加味する。他の人に迷惑になる行為は減点する。
--

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 **年間授業計画** 都立蒲田高等学校

教科・科目	美術Ⅲ 必修選択	2単位	対象学年・組	3学年
教科書	高校美術3（光村）	教科担任	桜井 麻倫子	

1. 目標 高等学校の最高学年として、高い意識を持って表現し、完成度を高める。
個々の能力、個性を活かした表現になるよう、3年間の経験を発揮させる。
進路実現のため、高い技術と表現力を養う。
創造力・表現力を養う。
2. 学習の到達目標 3学期の卒業制作展に向けて、3年間の集大成として完成度の高い作品を制作する。
技術的な優劣だけでなく、作品制作の意図をどのように表現するかを試行錯誤の中で見つけていけるようにする。
3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前半	デザイン ポスター制作	1 2	デザインの表現と鑑賞を学ぶ 選挙の啓発ポスターの制作 ポスターの役割について	「日本の四季」を表現する力を養い、 色彩感覚を研ぎ澄まして表現する 能力を培う。
	後半	デザイン ポスター制作	1 0	デザインの表現と鑑賞を学ぶ 選挙の啓発ポスターの制作 ポスターの役割について	「日本の四季」を表現する力を養い、 色彩感覚を研ぎ澄まして表現する 能力を培う。
2 学 期	前半	絵画	1 0	表現と鑑賞を幅広く学ぶ。絵画 の歴史、用具の使い方、表現と 鑑賞について時代の変遷に触 れながら学習する。	多様な画材に触れ、創造的に表現す る。漫画的な表現にならないよう に注意する。
	後半	卒業制作	1 0	3年間の学習成果を発揮し、最 後の作品として卒業制作に取り 組む。美術の表現と鑑賞をバ ランスよく学ぶ。	作品の完成度を上げ、丁寧に仕上 げる。怪我に注意する。
3 学 期		卒業制作	4	仕上げ	ニス塗りや仕上げの着色をおこな う。

4. 学習方法と生徒への注意

<ul style="list-style-type: none"> ・用具、材料を忘れず持ってくる。鉛筆箱、絵具道具等。 ・飲食禁止。携帯電話の使用も禁止。授業規範を確立し、楽しく制作する。 ・勝手に教室から抜けださない。集中して作業に取り組む。 ・汚れる作業がある場合には、教室内のみ異装を許可する。 ・他の生徒に迷惑をかけるようなこと（大声でしゃべる、作品にいたずら）は絶対に禁止。 ・教室内の物品は大切に扱うこと。落書き厳禁。 ・単元の順序は変更することがある。
--

5. 評価の観点・方法

<ul style="list-style-type: none"> ・長い時間をかけて、計画的に一つの作品を作り上げるという姿勢。 ・うまくいかないことがあってもあきらめないうで自分なりの表現をすることができる。 ・努力している、集中しているなど授業態度も成績に入る。他の人に迷惑になる行為は減点する。

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技 能	思考力・判 断力	課題発見 力・解決力	生涯学習 力	表 現 力	技能技術 力	読 解 力	鑑賞する 力	資料活用 する技能
○		○		○	○	○		○	

教科・科目	素描 選択	2 単位	対象学年・組	3 学年 1～6 組
教科書	なし	教科担任	桜井麻倫子	

1. 目標 美術の表現に関心を持って、造形活動に取り組む。創造する喜び、楽しさを味わう。
2. 学習の到達目標
発想を豊かに、創造力・想像力を発揮して表現する。
課題作品を最後まで丁寧に仕上げ、完成する。

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	前半	オリエンテーション 静物デッサン	10	鉛筆デッサンの基礎 簡単な立体	画材の特性や道具の使い方を理解して、制作実践を行う。
	後半	木炭デッサン	12	木炭を理解する。 自画像のデザインを考えて、木炭デッサン制作する。	魅力的、感動的な作品になるように努力を怠らない。
2 学期	前半	グリザイユ技法による 自画像デッサン	12	水張りパネルに、下描きして着色する。 鉛筆とアクリル絵の具(白)で描画する。	自らを見つめ、丁寧に描画して、描く喜びを味わう。
	後半	石膏デッサン鉛筆	6	石膏と静物を組み合わせたモチーフを描写する	丁寧に描画して、描く喜びを味わう。
		細密デッサン	6	植物を観察し、その美しさを味わいながら描画する	細部まで入念に描写することで、形態の面白さを自ら発見する
3 学期		細密デッサン	4	植物を観察し、その美しさを味わいながら描画する	細部まで入念に描写することで、形態の面白さを自ら発見する

4. 学習方法と生徒への注意

- ・用具、材料を忘れず持ってくる。絵の具セット(鉛筆、絵筆、絵の具、パレット)など
- ・飲食禁止。携帯電話の画像を見て作業することを禁止する。
- ・勝手に教室から抜け出さない。集中して作業にとりくむ。
- ・汚れる作業がある場合は、教室のみ異装を許可する。
- ・他の生徒に迷惑をかけるようなことはしてはいけない。
- ・教室内の物品は大切に扱う。
- ・常識の範囲内で楽しんで作業に取り組む。
- ・単元の順序・内容は変更することがある。

5. 評価の観点・方法

- ・各学期、すべての作品を提出する。
- ・提出期限を守る。提出日に未完成の場合、原則としてその日の放課後に仕上げる。
- ・用具を必ず持ってくること。
- ・努力している、集中しているなど授業態度も成績に入ります。他の人の迷惑になる行為は減点です。

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 年間授業計画

都立蒲田高等学校

教科・科目	芸術・音楽 I	2 単 位	対象学年・組	1 学年 1 ～ 6 組 選択者
教科書	教育芸術社 MOUSA 1	教科担任	松下 訓子	

1. 目 標
- ①基礎実技の修得
 - ②音楽的基礎知識の習得
 - ③表現方法の学習
2. 学習の到達目標
- ①自然で無理のない発声で歌唱ができるようになること。
 - ②基礎的な楽典を修得し、楽譜が読めるようになること。
 - ③歌唱、器楽演奏を通して、表現の工夫ができるようになること。
3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	前半	歌唱 音楽理論 器楽 (ピアノ①) 鑑賞・音楽史	1 2	校歌の音取り、暗譜 校歌の写譜 ピアノの基礎、片手奏 モーツァルトの生涯①	(1)遅刻、欠席、忘れ物をしない。 (2)楽譜の読み書きに慣れる。 (3)ピアノ基礎を正しく学習する。 (4)マナーを踏まえた鑑賞。
	後半	歌唱 音楽理論 器楽 (ピアノ②) ソルフェージュ	1 4	合唱曲、ミュージカル曲 五線、音部記号 ピアノの基礎、両手奏 4分音符、ド～ミ	(1)音楽の理論を正しく学習し、音楽活動に活かせるようにする。 (2)ピアノの基礎を正しく学習する。
2 学期	前半	歌唱 音楽理論 器楽 (ギター①) 鑑賞・音楽史	1 4	イタリア歌曲 音名 (イタリア語) ギターの基礎、音階 モーツァルトの生涯②	(1)遅刻、欠席、忘れ物をしない。 (2)ギターの基礎を正しく学習し、実習を通して、正確に身につける。
	後半	歌唱 創作 音楽理論 器楽 (ギター②) 鑑賞 ソルフェージュ	1 6	ドイツ歌曲 5音音階を使用した作曲 音名 (英語) ギターの基礎、メロディ奏 諸民族の音楽 8分音符、ド～ソ	(1)遅刻、欠席、忘れ物をしない。 (2)音楽の理論を正しく学習し、音楽活動に活かせるようにする。 (3)実技実習を通して、演奏に活かせるように技能を身につける。
3 学期		歌唱 音楽理論 器楽 鑑賞・音楽史 鑑賞	1 4	合唱曲 コードネーム アンサンブル モーツァルトの生涯③ ミュージカル	(1)音楽理論を更に深く掘り下げて学習し、音楽活動に活かせるようにする。 (2)楽器の演奏技能を伸ばし、作品の演奏の実習を正しく行い、発表を目指す。実習を通し、演奏に活かせるように技能を身につける。

4. 学習方法と生徒への注意

<p>学習方法</p> <p>(1)歌唱法の基礎技能を学ぶ。マナーをわきまえた鑑賞態度に気をつける。</p> <p>(2)楽典の基礎を学び、演奏力、読譜力をつける。</p> <p>生徒への注意</p> <p>(1)遅刻、欠席、忘れ物をせず、積極的に授業に参加し、ひとりひとりの音楽力をのばす努力をする。</p> <p>(2)協調性を持ち、マナー、節度を守った授業態度をこころがける。</p>

5. 評価の観点・方法

<p>(1)遅刻、欠席をせず、授業に積極的に参加しているか。</p> <p>(2)忘れ物をせず、毎回の授業に必要なものを持参しているか。</p> <p>(3)熱心に音楽の知識を学ぼうとする姿勢があるか、また技術の習得はできているか。</p> <p>(4)協調性を持ち、マナーを守れているか。</p> <p>(5)聴く側に伝わるような演奏表現の工夫が充分になされているか。</p>

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 **年間授業計画** 都立蒲田高等学校

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	2 単 位	対象学年・組	2 学年 1～6 組選択者
教科書	教育芸術社 MOUSA 2	教科担任	松下 訓子	

1. 目 標
- ①基礎実技の習得
 - ②音楽の基礎知識の習得
 - ③表現方法の学習
2. 学習の到達目標
- ①自然で無理のない発声で歌唱ができるようになること。
 - ②基礎楽典を習得し、正しく読譜ができるようになること。
 - ③歌唱、器楽演奏を通して、表現の工夫ができること。

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	前半	歌唱 音楽理論 器楽 (ギター) 創作	1 2	斉唱曲、合唱曲 コードネーム コード奏による弾き歌い 日本特有の音階を使った作曲	(1)遅刻、欠席、忘れ物をしない。 (2)音階を理解し、意欲的に創作に取り組む。 (3)階名を理解し、楽譜上で読めるようにする。
	後半	歌唱 音楽理論 器楽 (ピアノ) 鑑賞・音楽史	1 4	斉唱曲、合唱曲 メジャーコードとマイナーコード コードの理解と演奏 ベートーヴェンの生涯①	(1)音楽の理論を正しく学習し、音楽活動に活かせるようにする。 (2)ピアノの基礎を正しく学習する。
2 学期	前半	歌唱 音楽理論 器楽 (ギター①) 鑑賞	1 4	英米歌曲 調性 (＃系長調) 各自選んだ曲の練習 バレエ	(1)遅刻、欠席、忘れ物をしない。 (2)ギターの練習に積極的に取り組む。 (3)オペラとミュージカルの違いを理解し鑑賞する。
	後半	歌唱 音楽理論 器楽 (ギター②) 鑑賞・音楽史	1 6	合唱曲 調性 (b系長調) ギターの基礎、コード奏 ベートーヴェンの生涯②	(1)遅刻、欠席、忘れ物をしない。 (2)音楽の理論を正しく学習し、音楽活動に活かせるようにする。 (3)実技実習を通して、演奏に活かせるように技能を身につける。
3 学期		歌唱 音楽理論 器楽 (ピアノ・ギター) 鑑賞	1 4	現代の作曲家の歌曲 反復記号 アンサンブル、発表 オペラ	(1)音楽理論を更に深く掘り下げて学習し、音楽活動に活かせるようにする。 (2)楽器の演奏技能を伸ばし、作品の演奏の実習を正しく行い、発表を目指す。実習を通し、演奏に活かせるように技能を身につける。

4. 学習方法と生徒への注意

<p>学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自然で無理のない発声ができるようなヴォイスメイキングのトレーニングを行う。 ②プリントを用いて、リズムトレーニングを行う。 ③個人のレベルにあったキーボードの実技練習及びアンサンブルを通して読譜力をつける。 <p>生徒への注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ①遅刻、欠席、忘れ物をせず、積極的に授業に参加し、各々の音楽力をのばす努力をすること。 ②協調性を持ち、マナー、節度を守った授業態度をこころがけること。
--

5. 評価の観点・方法

<ul style="list-style-type: none"> ①毎回の授業に必要なものを持ってきているか。忘れ物チェック、提出物チェック。 ②遅刻、欠席をせず、授業に積極的に参加しているか。また協調性をもって、マナーを守れているか。 ③歌詞の読み方を理解し、正しい発音で歌えるか。 ④熱心に音楽の知識を学ぼうとする姿勢はあるか、また技術の習得はできているか。 ⑤聞く側に伝わるような演奏表現の工夫が為されているか。
--

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 年間授業計画

都立蒲田高等学校

教科・科目	芸術・音楽Ⅲ	2 単 位	対象学年・組	3 学年選択者
教科書	教育芸術社 Joy of Music	教科担任	松下 訓子	

1. 目 標
- ①音楽実技を通して、音楽表現を学ぶ。
 - ②ピアノの実技習得を目標とする。
 - ③楽器の扱い、演奏のマナー等を身につける。
2. 学習の到達目標
- ①正しいフォームで演奏ができるようになること。
 - ②演奏に必要な基礎知識を身につけること。
 - ③楽譜を正しく読む力を付け、演奏に生かせるようになること。
3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	前半	歌唱 器楽 音楽史・鑑賞 ソルフェージュ	1 2	斉唱曲 ピアノ バロック時代の音楽 4分、8分、ド～ミ	①遅刻、欠席、忘れ物をしない。 ②演奏のフォームを正しくたもつようにこころがける。 ③音楽の歴史や仕組みを理解して鑑賞・聴取に役立てる。 ④音価や音程の感覚が定着するように繰り返し学習し、演奏や鑑賞に役立てる。
	後半	歌唱 器楽 音楽史・音楽史 ソルフェージュ	1 4	合唱曲 ギター 古典派の音楽 4分、8分、ド～ミ	
2 学期	前半	歌唱 器楽 音楽史・鑑賞 ソルフェージュ	1 4	文化祭の練習、発表 文化祭の練習、発表 ロマン派の音楽 4分、8分、ド～ソ	①遅刻、欠席、忘れ物をしない。 ②演奏のフォームを正しくたもつようにこころがける。 ③音楽の歴史や仕組みを理解して鑑賞・聴取に役立てる。 ④音価や音程の感覚が定着するように繰り返し学習し、演奏や鑑賞に役立てる。
	後半	歌唱 器楽 音楽史・鑑賞 ソルフェージュ	1 6	アンサンブル アンサンブル 近現代の音楽 4分、8分、ド～ソ	
3 学期		個々のレベルに応じた自由曲の練習と発表	1 4	実技練習曲、発表	①一年間のまとめとして、成果を発表できるよう取り組ませる。 ②人前であがらず、表現豊かに演奏できるよう、十分練習させる。

4. 学習方法と生徒への注意

<p>学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自然で無理のない発声ができるようなヴォイスメイキングのトレーニングを行う。 ②ソルフェージュ及び楽典の基礎を、演奏指導と関連させながら学習、理解を深める。 ③個人のレベルにあったピアノやギターの実技練習及びアンサンブルを通して読譜力をつける。 <p>生徒への注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ①遅刻、欠席、忘れ物をせず、積極的に授業に参加し、各々の音楽力をのばす努力をすること。 ②協調性を持ち、マナー、節度を守った授業態度をこころがけること。
--

5. 評価の観点・方法

<ul style="list-style-type: none"> ①毎回の授業に必要なものを持ってきているか。忘れ物チェック、提出物チェック。 ②遅刻、欠席をせず、授業に積極的に参加しているか。また協調性をもって、マナーを守れているか。 ③歌詞の読み方を理解し、正しい発音で歌えるか。 ④熱心に音楽の知識を学ぼうとする姿勢はあるか、また技術の習得はできているか。 ⑤聞く側に伝わるような演奏表現の工夫が為されているか。
--

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的機能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 年間授業計画

都立蒲田高等学校

教科・科目	3年音楽自由選択 (伴奏のためのピアノ)	2単位	対象学年・組	3学年自由選択者
教科書		教科担任	勝間 洋子	

1. 目標
 - ①音楽実技を通して、音楽表現を学ぶ。
 - ②ピアノの実技習得を目標とする。
 - ③楽器の扱い、演奏のマナー等を身につける。
2. 学習の到達目標
 - ①正しいフォームで演奏ができるようになること。
 - ②演奏に必要な基礎知識を身につけること。
 - ③楽譜を正しく読む力を付け、演奏に生かせるようになること。
3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	前半	音楽理論 リトミック 器楽 (ピアノ)	1 2	五線、音部記号、大譜表 即時反応 バイエル、童謡伴奏	①遅刻、欠席、忘れ物をしない。 ②演奏のフォームを正しく保つようにこころがける。 ③積極的に技術の習得に務める。
	後半	音楽理論 リトミック 器楽 (ピアノ)	1 4	音価 ニュアンスの違い バイエル、童謡伴奏	④レベルに応じて、基本から応用練習にすすめるように個人指導を行う。 ⑤人前で発表する力を付ける。
2 学期	前半	音楽理論 リトミック 器楽 (ピアノ)	1 4	小節、拍子、タイとスラー 音の高低 バイエル、童謡伴奏	①遅刻、欠席、忘れ物をしない。 ②演奏のフォームを正しく保つようにこころがける。 ③積極的に技術の習得に務める
	後半	音楽理論 リトミック 器楽 (ピアノ)	1 6	反復記号、調号 拍子の違い バイエル、童謡伴奏	④個々のレベルに応じた曲を自由に選定し、積極的に練習する。 ⑤楽典で学んだことを演奏に生かす。
3 学期		音楽理論 リトミック 器楽 (ピアノ)	1 4	楽典まとめ リトミックまとめ バイエル、童謡伴奏	①一年間のまとめとして、成果を発表できるよう、熱心に取り組ませる。 ②人前であがらず、表現豊かに演奏できるよう、十分練習させる。

4. 学習方法と生徒への注意

<p>学習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ピアノ演奏の正しいフォーム（姿勢、腕、指等）を常に意識しながら、各自実技練習をする。 ②楽典の基礎、伴奏法を、演奏指導と関連させながら学習、理解を深める。 ③実技練習にあたっては、基礎練習から段階を追って、応用練習へと展開する。 <p>生徒への注意</p> <ol style="list-style-type: none"> ①毎授業への出席を重視し、練習を大切にす。注意点をおさえて、繰り返し練習する。 ②マナーを守り、協調性のある態度を心掛ける。

5. 評価の観点・方法

<ol style="list-style-type: none"> ①毎回の出欠席を重視する。遅刻、忘れ物をしない。 ②演奏の姿勢、手のフォームに気をつけて、演奏ができるか。 ③集中して練習しているか、また、注意をうけたことを積極的に練習しようとする向上心があるか。 ④伴奏法に必要な音楽の知識が身についたか。 ⑤一年間のまとめとして、保育の場面で役立つ伴奏が出来るか。

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 年間授業計画

都立蒲田高等学校

教科・科目	芸術 書道 I 必修・ 選択	2単位	対象学年・組	1学年 1～6組
教科書	『書 I』(光村図書)	教科担任	河合 洋輔、酒井佑、藤井千妃浩	

1. 目 標 各種の古典を学び、書が多様であることを知る。毛筆の基本的な表現力を身につける。日常生活で役立つ書写能力を高める。
2. 学習の到達目標 各種の古典を臨書し、書が多様であることを知る。自分のイメージどおりに表現できるように毛筆の基本的な表現力を身につける。硬筆の楷書の基本的な字形の整え方を身につける。
3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学期	前半	各書体の基本的な書き方	1 2	各書体の用筆を学ぶ。	執筆法、字形の整え方も学習する。運筆方法をも学ぶ。
	後半	漢字の古典の臨書	1 3	多様な用筆を学ぶ。	楷書・行書両方の古典を学ぶ。字形の整え方も学習する。
2 学期	前半	漢字の古典の臨書	1 2	多様な用筆を学ぶ。漢字の創作作品を書く。	楷書・行書両方の古典を学ぶ。字形の整え方も学習する。創作作品の場合、臨書で学んだことを応用する。
	後半	仮名の書	1 5	変体仮名・連綿などの仮名の多様な表現方法を学ぶ。	仮名の歴史も学習する。短歌の古典などは内容も簡潔に学習する。
3 学期		漢字仮名交じりの書	1 8	漢字と仮名の調和のさせ方を学ぶ。古典を応用して漢字仮名交じりの書の創作作品を書く。	1・2学期の学習成果を生かす。創作の過程を記録し、創作の手順を理解する。創作に役立つ各種の参考例を生徒に提示する。

4. 学習方法と生徒への注意

授業ごとに学習の到達目標を明示し、ポイントをしぼった学習内容にする。
その時々自分の学力を各生徒が自覚できるように、各生徒の作品を添削して返却する。
1年を通じて硬筆も学習する。

5. 評価の観点・方法

次のものを元に総合的に評価する。学習意欲や学習態度、授業中の集中度、作品の出来、提出したプリントの内容、一年間を通じて学力がどれだけ伸びたかということ、またその伸び方の過程。
確認テストは行わない予定。

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 **年間授業計画** 都立蒲田高等学校

教科・科目	芸術（書道）書道Ⅱ 必修選択	2単位	対象学年・組	2学年 1～6組
教科書	『書Ⅱ』（教育図書）	教科担任	河合 洋輔、藤井千妃浩	

1. 目 標 1学年で学習した基礎・基本をもとに更に表現力と鑑賞力を高める。書の歴史や理論を学ぶことにより書の文化に対する理解を深めると共に、書の諸活動を通じ、生涯を通し、書を愛好する心情を育てる。
2. 学習の到達目標 様々な書体の書風や特徴を捉え、多様な表現に活かすことが出来る。用具用材を適切かつ工夫して扱い、自らの力で（手本を頼らず）創作が出来る。書作品に対して興味・関心をもち適切に鑑賞することが出来る。

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	前 半	【漢字の書の学習】 ・篆書の鑑賞と臨書 ・篆刻	12	篆書の古典作品の臨書を通して篆書の結構、用筆を学ぶ。 姓名印の制作。 朱文・白文を学ぶ。	篆書の文字史的な位置づけを理解した上で、臨書を行う。ハンコとの違いを考えた上で、書に置ける落款の意味を理解する。
	後 半	・隸書の鑑賞と臨書	14	隸書の古典作品の臨書を通して篆書の結構、用筆を学ぶ。 創作。	隸書の特徴を理解した上で表現力を身につける。
2 学 期	前 半	・草書の鑑賞と臨書	12	草書の古典作品の臨書を通して篆書の結構、用筆を学ぶ。 画仙紙にまとめる。	草書の特徴を理解した上で表現力を身につける。 多字数を用紙にまとめることにより章法をまなぶ。
	後 半	・漢字の書のまとめ 【仮名の書の学習】・ 仮名の書の鑑賞と臨書	14	これまで学んだ書体について、表現、鑑賞力が身に付いたかを確認する。仮名の書の古典の臨書を通し、小筆の使い方を学ぶ。	漢字の書体及び書風の違いを理解する。 変体仮名の字源と連綿、散らしを理解する。
3 学 期		【漢字仮名交じりの書の学習】	18	漢字仮名交じりの文を題材に様々な工夫をして作品を制作する。	これまで学んだことをもとに、多様な表現を用い、自ら工夫した作品を制作する。

4. 学習方法と生徒への注意

授業ごとに学習のテーマを明示し、学習内容と目標を理解できるようにする。
プリント等をまとめることで、学習内容の定着を図る。
よく観察し考え、工夫する態度を身につけ、より高度な表現を目指す。
テーマに沿った評価項目に留意して課題制作にとりくむ。

5. 評価の観点・方法

毎時間（単元）の目標（＝評価の基準）を明確に設定し、個々の上達度、意欲・関心・態度を授業内の活動から計り総合的に判断する。
提出課題の作品を活用し、書作品としての客観的な評価ではなく、個々の達成度や過程を充分考慮して評価をする。

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○		○	○	○		○	

平成31年度 **年間授業計画** 都立蒲田高等学校

教科・科目	芸術（書道）書道Ⅲ 必修選択	2単位	対象学年・組	3学年 1～6組
教科書	『書道Ⅲ』（東京書籍）	教科担任	藤井千妃浩	

1. 目標 1、2学年で学習した基礎・基本をもとに更に表現力と鑑賞力を高める。書の歴史や理論を学ぶことにより書の文化に対する理解を深めると共に、生涯を通し書を愛好する心情を育て、生活に生かす態度を育てる。
2. 学習の到達目標 様々な書体の書風や特徴を捉え、臨書することが出来る。
用具用材を適切かつ工夫して扱い、創作することが出来る。
古典から現代の書作品に対して幅広く興味・関心をもち、適切に鑑賞することが出来る。

3. 学習内容と学習上の留意点

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
1 学期	前半	【漢字の書の学習】 ・篆書の鑑賞と臨書 ・隸書の鑑賞と臨書	12	篆書・隸書の作品の臨書を通じて、篆書・隸書の結構、用筆を学ぶ。 主体的に創作に取り組む。	篆書の文字史的な位置付けを理解した上で、臨書を行う。 落款の意味を理解する。 そうした中で創作が出来る。
	後半	・草書の鑑賞と臨書 ・行書の鑑賞と臨書	16	草書の古典作品の臨書を通じて、主体的に創作に取り組む。 行書の作品の臨書を通じて、主体的に創作に取り組む。	草書、行書の特徴を理解した上で、表現力を身につける。 多字数の章法を学び、身につける。
2 学期	前半	・楷書の鑑賞と臨書 ・仮名の鑑賞と臨書	12	楷書の鑑賞・臨書を通じて、主体的に創作に取り組む。 古筆の特徴を理解し、主体的に創作する。	楷書・仮名の特徴を理解した上で、幅広い表現力を身につける。
	後半	・漢字仮名交じりの書の鑑賞・臨書	18	漢字の各書体や書風に調和する仮名の表現について考え、創造的表現を工夫する。	漢字の書体、書風の違いを理解し、現代に生きる書としてどうあるべきかを考える。
3 学期		臨書から創作へ	12	自らの思いや感動を表現する 語句と書表現との関係について考え、自ら創作に取り組む。	これまでに学んだことをもとに、多様な表現を用い、自ら工夫した作品を制作する。

4. 学習方法と生徒への注意

<p>教科書、書道用具は必ず持参する。 よく観察し考え、工夫する態度を身につけ、より高度な表現を目指す。 テーマに沿った評価項目に留意して課題制作にとりくむ。 創作のための資料集めを行う。</p>
--

5. 評価の観点・方法

<p>毎時間（単元）の目標（＝評価の基準）を明確に設定し、個々の上達度、意欲・関心・態度を授業内の活動から計り総合的に判断する。 提出課題の作品を活用し、書作品としての客観的な評価ではなく、個々の達成度や過程を充分考慮して評価をする。</p>

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的 技能	思考力・判 断力	課題発見 力・解決力	生涯学習 力	表現力	技能技術 力	読解力	鑑賞する 力	資料活用 する技能
○		○		○	○	○		○	